

令和2年度（2020年度）第4回つくば市行政経営懇談会会議録要旨

議事（1）令和2年度（2020年度）つくば市行政経営懇談会提言（案）について

	意見等	対応等
1	<p>アンケート行う場合、人口に対して何パーセントという目標サンプリング数を最初に設定したほうが、より多くの市民の意見を集められるのではないか。</p> <p>また、当初設定していた場所で意見を集めることが難しい場合には実施場所を変更するなど、柔軟に対応すると良いのではないか。</p> <p>数値目標を設定し、それを達成すべく適切な収集方法と柔軟な対応をとることが求められるのではないか。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>■提言の追加を行わない</p> </div>
2	<p>手法等によっては、数値目標の設定が足枷となる場合がある。対象を検討した上で設定していかなければ難しいのではないか。</p>	
3	<p>何にでも数値目標を設定すると、それを達成することが目的となり、本来の趣旨と離れてしまう可能性がある。</p>	
4	<p>市民委員については審議会等ごとに小論文や面接等により選考を行うか、無作為抽出による委員等候補者名簿から依頼を行っているが、市民委員をやってみようとして手を挙げた人たちを登録、データベース化し、その中から各審議会等に参加いただくという人選の方法もあるのではないか。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>■提言に追加する</p> <p>5 ページ、「5 提言」</p> <p>③の2つ目</p> <p>参加を希望する市民の情報をもっと積極的に活用するため、リストを作成しても良いのではないか。なお、その際はある程度時限的な登録とする。</p> </div>

5	<p>市職員は生活者でもあり、市民としての考え方や立場と業務との板挟みになり、大変かと思う。もう少し職員の本音を施策にうまく反映できると、市民よりの発想が出てくるのではないか。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>■提言に追加しない 提言書には反映されないが、今後取組を進める上での検討課題とする。</p> </div>
6	<p>体裁について、なぜ①～③の三点に絞って検討しているのかというところの言及がない。3の「現状と課題」か4の「検討」で補足すると読みやすいのでは。</p>	<p>【事務局提案】</p> <p>案1：「現状と課題」に若者の参加率が低いというバックデータを載せる。</p> <p>案2：検討の書き方として、大前提は解説しないが、「主に審議会等の市民委員の参加について協議を行った。この協議を踏まえ、①～③の特にこの三つについて、つくば市における～」とする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>■提言書を修正する 3ページ、「4 検討」</p> <p>事務局案2のように修正。</p> </div>
7	<p>5の「提言」①の三つ目で希望分野に関する選択肢の追加を記載しているが、現状を知らずに提言書を読む人がいると思うので、現状と変更後の内容について記載したほうが良いのでは。</p>	<p>【事務局補足】</p> <p>提言書は行政経営懇談会から市長に提出するものであり、市民向けのものではないが、例えば、提言書の中で文言の補足は行わないが、市のホームページに掲載する際に補足的な説明や提言の解説をつけるという方法はある。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>■提言書の修正は行わない 提言書そのものに付記等は記載しないが、提言書がホームページ等に掲載される場合には解説等を追加する。</p> </div>

8	<p>5の「提言」①の最後の文について、ジェンダーバランスや居住地等に偏りがないよう配慮するという一文を追加するという意味がわからない。必ずしも偏りがないということだけを追求する必要はなく、特定の層から選ぶ必要がある場合もあるのではないか。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>■提言を修正する 4 ページ、「5 提言」 ①の4つ目</p> <p>必ずしも偏りがない状態にする必要はない。</p> </div>
9	<p>仕事を持っていると昼間の会議は休暇を取得しなければならない。裁判員制度と同様に市の市民委員として会議に参加する場合は特別休暇を使えるというような制度があると良い。つくば市から会社や研究所等に口添えしてもらえるとありがたい。</p>	<p>【事務局補足】</p> <p>対職場で審議会等に出席するために休暇を取ることを正当化できるようにということであれば、例えば、委員から希望があった際、審議会等の担当課等から市民委員の職場に配慮していただくための文書を出すことはできる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>■提言に追加する 4 ページ、「5 提言」 ②の2つ目 ③の7つ目（再掲）</p> <p>審議会等の市民委員として参加しやすい職場環境のために広報、喚起する。</p> </div>
10	<p>提言書を一般の人たちが読んだ場合にわかりにくい言葉があるため、付記などの記載があると良いのではないか。</p> <p>また、自分が市民委員に参加するようになった場合には周囲の誘いや口コミがきっかけになると思う。市の広報で審議会等のコラムのようなものがあると、市民の目に触れる機会も増え、参加のハードルも下がるのではないか。</p>	<p>【事務局補足】</p> <p>提言書は行政経営懇談会から市長に提出するものであり、市民向けのものではないが、例えば、提言書の中で文言の補足は行わないが、市のホームページに掲載する際に補足的な説明や提言の解説をつけるという方法はある。</p>

		<p>■提言書の修正は行わない 提言書そのものに付記等は記載しないが、提言書がホームページ等に掲載される場合には解説等を追加する。</p>
11	<p>対象者の絞り込みということについては、AIやビッグデータを利用し、協議事案等に対して適切な人を選定するという方法の一つとして考えられる。</p>	<p>■提言に追加しない 提言書には反映されないが、今後取組を進める上での検討課題とする。</p>

議事（2）スーパーシティ基本方針について

	意見等	スマートシティ戦略室 回答等
1	<p>対象地域が4つということだが、それ以外の地域が取り残されるのではないか。</p>	<p>3月末の内閣府に対する申請の段階では、4地域に絞り、進めていきたいと考えているが、将来的には横展開をして、これらの地域だけが特別にはならないようにする。</p>
2	<p>年配の方がスマートフォンを使うことには相当困難が伴うのではないか。タブレットのような大きなもの、簡単に使える形にしなければ難しいのではないか。例えば、コミュニケーションロボットや見守りAIロボット当を活用したほうが、効果が高いのではないか。</p>	<p>御意見として承る。</p>
3	<p>高齢者に生きる喜びを与える、回復して成長させる（レジリエンス）というような形の宣言も必要ではないか。</p>	<p>御意見として承る。</p>
4	<p>決済について、地域デジタル通貨を入れ、様々なサービスの支払いができる構想も取り入れるといいのではないか。さらに、イニシャルコインオフ</p>	<p>御意見として承る。</p>

	<p>ァリング(IC)、仮想通貨なども入れて資金調達を行い、市民に使ってもらうという次元まで伸ばしてもいいのではないか。</p>	
5	<p>先進的サービス実装には含まれていないが、教育も重要である。先進的なことも大切だが、新型コロナウイルス感染症対策で実施されたオンライン授業等で困っている人もいる。そのような点についても盛り込んでもらいたい。</p>	<p>御意見として承る。</p>
6	<p>4つの地域に先進サービスを実装とあるが、5つの項目全てを実装していくのか、それとも順を追って進めていくのか。</p>	<p>各地区で全項目を行うということとは考えていない。地区ごとに優先順位をつけて実施する。一方で、各地域の進捗を見ながら、ある地域では全項目を実施するということもあるかと思う。</p>
7	<p>高齢者へのタブレット配布については、セコムやアルソック等が見守りに関する製品を既に出していると思うので、そういったところと一緒に取り組むのはどうか。一台で教育や防犯にも繋げることができるのではないか。</p> <p>また、タブレットの配布というよりも、市職員が夜間対応もするなど、高齢者が会話をする機会をつくるほうが良いのではないか。</p>	<p>タブレットを配布してサービスを受けられるので使ってください、ということとは良くないと思っている。コミュニケーションが大事になる。行政サービスのデジタル化となったとき、遠隔の方を対象に利便性を挙げるということもあるが、市役所側の業務負担も下がる可能性が同時にある。市役所職員が普段の事務作業に追われ、市民と直接話す時間が取れない、議論や調べものをする時間がないという現状がある。デジタル化により職員の事務負担が減れば、職員が周辺地区に足を運び、地域の人と直接話をする機会も増えるのではないか。</p>
8	<p>この方針はおおよそ何年で達成するものなのか。</p>	<p>順次実施していくが、2030年に資料に書いてあるようなことが概ね全て達成できる。</p>
9	<p>認定されれば国の補助金がでると思うが、予算はどうなっているのか。どれだけ市の予算をここに投入するのか。</p>	<p>金額は未定。</p> <p>採択された場合、内閣府から来年度に一億円+αが配られることになっているが、資料に記載してあることは</p>

		<p>一億円では達成できないため、色々な方法を組み合わせる必要がある。</p> <p>例えば</p> <ul style="list-style-type: none"> ①既存の予算を振り分けて活用する。 ②民間サービスの延長線上で行政が負担することなく提供されるサービスもある。 ③利用料をいただく。 ④ソーシャルインパクトボンド(公共的な目的に賛同した人たちが少しずつ出資し、ビジネスとして成功した場合は出資した金額に対して投資分の利益が得られる。住民も含めて少額から出資できる。)
10	後日、資料に関する意見を市に送付することは可能か。	可能。期限はとくに設けない。
11	国の補助を受けた際は、いかにそれを継続して住みやすいまちを維持していくかということを考えなければいけないと思う。	スーパーシティになるに当たっては、予算面も含めていかに持続可能な仕組みにできるかということも大事だと思う。
12	スーパーシティが採択された場合に専従の人を雇う予定はあるのか。	新規で雇用するかは不明だが、来年度は専任をもう少し増やしたうえで、関係課等の職員にも兼任という形で入ってもらう予定でいる。
13	スマートシティ協議会について、官と民の役割分担、費用、経費、情報の取り扱いの整理はどの程度できているか。	<p>住民の情報は参加する事業所が自由に使えるわけではなく、市役所が管理するということが大前提となり、企業から預かる情報も自由に共有されるわけではない。企業同士でコラボレーションとなった場合には、協議をした上でお互いにどのような技術を持っているのかなどを共有することは行ったほうが良いと思う。</p> <p>また、個人の人サービスを受けるときに複数の事業者間でその人のデータが共有されるということがある。</p>

		<p>データはデータ連携基盤というところで共有するが、そこには参加している事業者が誰でもアクセスできるわけではなく、サービスを受けたいと思う住民が同意をした場合に限り、限定された事業者間で共有される。セキュリティの担保もできるように考えている。</p>
14	<p>最終的にはマイナンバーで紐づくような形で管理されるのか。</p>	<p>マイナンバーの普及の度合いにもよる。マイナンバーが普及している前提であれば、マイナンバーを活用することで様々な共有を行いやすくなるが、マイナンバーで全て紐づけていくということが適切かどうかはわからないので、その辺りも引き続き考えていきたい。</p>